

ARPA・K NEWS LETTER

地域計画・建築研究所



京都府総合見本市会館「バルスプラザ」が3月末に竣工します。

アルパック ニュースレター もくじ

- ・潮江子ども雪まつりー商店街のイベントおこし 2
- ・舞鶴港港湾交流調査団に参加して 5
- ・臨海部にある現代的ガスエネルギー館 8
- ・簡易堆肥器導入などで収集ごみを大幅削減 9
- ・まちかど ○伝統的産業の再生と洋風建築 10

NO. **22**

潮江子ども雪まつり

— 商店街のイベントおこし —

馬場正哲

この2月1日、キリンビール尼崎工場横の空き地に兵庫県美方郡美方町から「雪」33トンが届き、「潮江子ども雪まつり」が行われました。子供会の主催で裏方は潮江本町商店街振興組合です。後援は過疎に悩む山のまち美方町。延べ3千人の子供達やお母さんお父さんで賑わい、雪とふる里の味覚を満喫しました。特に、子供達の驚きと喜びに、皆が満足しました。この都市と山村の出会いと共同戦線について紹介します。

潮江は過密のまち尼崎の中の、
過疎化に悩む地区

潮江地区は尼崎市の東南に位置する旧小田村の中心地です。かつては、地域中心として、商店街、市場が栄え、近松門左衛門で有名な広濟寺も近くにありますが、しかし、道路等の

都市基盤整備が遅れる一方、塚口、園田、杭瀬など周辺の駅前商業地が再開発等により強化化する中で相対的に商業力を弱めています。

これは、尼崎の南部問題にもからみます。南部問題とは市南部の工住混合地域を中心に工業化の低迷の中で、地域活力の低下や住環境の悪化により人口が急激に減少してきており、潮江地区周辺部も同様に人口が減少し、商業に大きな影響を及ぼしています。

そこで、潮江を小田地区の中心に再生し、南部の活性化を進めようと、潮江地区再開発計画が昭和55年からスタートしております。私供も昭和59年末より参画して、現在計画の合意づくりが図られています。

しかし、再開発の計画は長引けば現況商業をより低迷させるのが常です。即ち、新たな投資や権利の移動を控えるからで、潮江本町



美方町の雪と遊ぶ潮江の子どもたち

商店街も御多分に漏れずの状態です。低迷は組織を弱くし、ごたごたを招きます。これでは再開発に対しても主体性が維持できない。何とか自分らで、商店街の活気を取り戻そうと振興組合の若手が奮気し、商店街のイベントおこしに取り組み始めました。

美方町は人口減少に悩む過疎のまち

一方、後援の美方町は尼崎と同じ兵庫県の北部で、鳥取県との県境に位置する人口3千人の山村で、過疎に悩むまちです。昭和59年私供も参画してまちづくり計画に取り組み、過疎打開のために、まちの資源を最大限に活し、都会との交流によって、まちに新たな産業の芽を産みだそうということで「ふるさと会員」制度に取り組んでいます。

共同戦線のこころみ

潮江本町商店街振興組合（組合員約80店）はこれまで大売出し程度の販促しか経験がなく、様々の試みも、体質的にまとまりませんでした。しかし、今回は先ず、小さなことから始めました。9月に「わた菓子セール」を20店でを行い、子供達に好評でしたが、組合の中では「やっとな」程度。10月に「小学校スナップ写真展」を行い、今度は少し、商店街に広く協力を呼びかけて、11月に「輪投げ大会」を54店舗の協力を得て行ってみると、実に約2千人のお客さんが集まり、「なかなか、ようやるな」と評価が変わって来ました。輪投げ大会も実に素朴な内容だったのですが、子供達や人が集まると、とくに、長老格の人がつい嬉しくなって熱中してしまったようです。この大成功を聞き、次はもっと「挑戦」してはどうかと、つつい仕掛けてしまい、「雪ぐらい持ってきますがな」と言ったのが運のつきで、じゃ、潮江の子供達に白雪をプレ

潮江本町商店街協賛大売出し
期間 1月30日・31日・2月1日



潮江
子ども雪まつり

日時 **2月1日(日)** (雨天決行)
会場 田原駅前北北館後援 (前橋駅前)

共催 潮江地区子供会
兵庫県美方郡美方町
潮江本町商店街振興組合

美方町観光協会
物産照会

潮江にゆきがやってくる!!

兵庫県美方郡美方町から雪がトラックののってやってきます。雪すべり、雪のミニ作品コンテスト、色々の観しがあります。思いっきり楽し可愛びましょう。ぬれてもよい服装と、長ぐつをはいてきてね。

<p>★日のアトラクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ●もちつき ●空のミニ作品コンクール ●しりとりもう 11:00 ●ジャンケンポン 14:00 ●くす玉わり 17:00 	<p>買物をして入場券をもらってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎お買上げ 200円 毎に補助券1枚 ◎補助券5枚で入場券1枚進呈!!
--	--

模擬店(売店)も出店します 甘酒、おでん、わた菓子、ぜんざい、カップヌードル、コーヒー、ジュース

潮江子ども雪まつりのちらし

ゼントしようということになり、旧知の美方町へ相談させられることとなってしまったのです。

幸い、美方町もこの話に乗っていただけることになり、振興組合の実行委員を紹介し、話合いの結果、共同戦線が成立しました。この手のイベントは美方町の方が経験も多く、どちらかという積極的です。振興組合はおっかなびっくりで、それでも若さで頑張り、皆で協力しあう形がいつのまにか出来あがっていったようです。

結局、費用は相互に利点を評価し、分担することとなり、地元は模擬店(甘酒、おでん、わた菓子、ぜんざい、カップヌードル、コーヒー、ジュース)とアトラクションの運営(しりとりもう、ジャンケンポン、くす玉わり等)を行い、地元と商店街の触れ合いの場とし、一方、美方町は11トントラック3台に雪を積んで持ってくる。また、当日、ふるさとのも



アトラクションとしてもちつきも行われました。

ちつきとおしるこ等の模擬店を出し、「但馬ふるさと小代」会員募集や、ニューオジロスキー場等観光宣伝を行うこととなりました。

追「但馬ふるさと小代協会」ふるさと会員については大阪事務所藤田まで

戦果は都会と山村の交流が出来たこと、
これから先が肝心

このイベントの成功で、振興組合は自信を持ち組織強化に結びつき、また、同じように過疎に悩み、まちの振興に努力する美方町を知り、交流が生まれたこと、これは今後の相互の協力に大きな期待が広がりました。

一方、美方町も同様ですが、ちなみに「ふる里」会員拡大実績は約11名でした。

また、マスコミにも大きく取り上げられ毎日放送テレビでは両方のまちの紹介とイベントを放映してくれましたし、読売、神戸新聞社もニュースとしてとりあげ、大きな宣伝効果となりました。

(ばばまさあき 大阪事務所)



但馬ふるさと
小代ニュース
会員募集特設号

第9号
発行 但馬ふるさと小代協会の事務局
〒652-1 兵庫県東灘区美利町1-52-1
電話 078(522) 2111

あなたの心にさわやかな緑を!!
「但馬ふるさと小代」
第3年次の会員を募集します。



▲ふるさと小代「緑」
戦後私達のくらしは大きく変わりました。ふるさととは、親や友人の原。そして
どちも楽しい心持たたくらし。「心の時代」といわれている今日、これでいいので
しょうか。私達はふるさと・過疎の立場から過疎、過密の視察を考え、豊かな自然の中
で美しいふるさとには都会の知恵と気風と豊かさを、豊かなくらしの中で心身しい感
念には大自然のあたたかさを、人間が人間らしく生きるくらしを、心がふるさとに出
会うゆたさを、「但馬ふるさと小代協会」は、そんな思いを胸に昭和59年4月発足しま
した。

過去2年間ふるさと運動を通じて、約615名(世帯)の方々と交流を進めてまいりま
した。若者結婚の縁起として失礼もありましたが、多くの会員の方々から「喜び」と「志
願」の聲をいただきました。これらの経験を生かし、より一層豊かされる「ふるさと」
をめざして第3年次の募集を行います。皆様の御入会を心からお待ちしております。

昭和62年1月

但馬ふるさと小代協会の事務局(局長) 西田 二雄

但馬ふるさと小代ニュース

舞鶴港港湾交流調査団に参加して

金井 萬 造

(1) はじめに

京都府舞鶴市が中国の大連市と友好姉妹都市であることから、京都府、舞鶴市、関連企業、日本国際貿易促進協議会京都総局の方など少人数による港湾交流調査団に参加する機会を得ることができました。

今回の中国訪問の目的は、大連港、菅口港を中心として舞鶴港との貿易等の関係の強化発展をめざし、現地の状況を調査し、関係方面との協議を深めることにありました。

非常に短い調査期間（10日間）であったが、大連及び菅口関係については、両人民政府の協力を得て現地視察をするとともに、特に多くの関係者との協議等が実施できました。

舞鶴市は、大連市と友好を結び本年で5年目を迎え、この5月に友好の翼として、230

名の大型の訪問団が訪中することになっています。

(2) 調査内容

調査内容の詳細は次のとおりです。

- ① 大連港、菅口港の港湾施設、管理運営状況について視察し、説明を受け舞鶴との協力発展について意見交換をする。
- ② 両港における中国東北地方の物資輸送についての動向を調査する。
- ③ 両港と舞鶴港の間でフェリー、コンテナ、バルク輸送等による貨物輸送の航路開設の可能性についての検討をするための情報を収集する。
- ④ 大連経済技術開発区の状況をはじめ、大連市を中心としての地域経済活動及びこれとの舞鶴港利用あるいは京都府内経済との



大連港客般埠頭

関係についての情報を収集する。

- ⑤ 上海港と舞鶴港との将来の配船の可能性についての検討に資するため、意見交換を行うとともに、舞鶴港のPRを行う。
- ⑥ 駐北京の日本商社等からみた全体的な舞鶴港利用促進等にあたっての情報を収集する。

以上の盛沢山の目的をもっていったわけです。

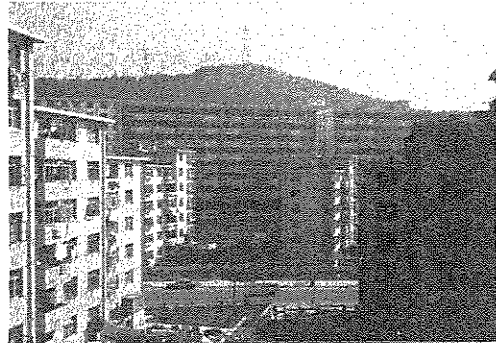
(3) 調査団成果

調査団の成果をまとめると次のとおりです。

- ① 舞鶴港利用等を中心とした話を通じ多くの組織、関係者と友好交流を深めることができました。(特に、10日間で4都市にわたり24組織74名の方々と精力的に交流を行いました。)
- ② 中国側の現時点での関心のポイント、考え方、問題点のとらまえ方等の情報が得られました。
- ③ 菅口港がある意味では今後舞鶴港との強力なパートナーとなる可能性があり、菅口港に係る情報を多く得ることができました。
- ④ 舞鶴港のPRの冊子を手渡し、一定の理解を得ることができました。この中で、舞鶴港利用が中国にとっても利益があるので検討に備える雰囲気づくりができました。
- ⑤ 今後における多様な交流や京都における情報交流・使節団編成等その取り組みのきっかけづくり又は、各団体の意識啓発のための場づくりに資する情報を得ることができました。

(4) 調査日程

調査日程(61年8月28日～9月6日)では台風のため出発を24時間延期することになりましたが、かえって、調査団ミーティングが



大連市近郊、住宅改良事業で

ニュータウンに衣がえ

実施でき団員の交流ができました。大連市、菅口市では、「熱烈歓迎」で日本の高度成長時のようなハードスケジュールでの多くの組織との交流会議となり、朝から晩まで会議づくめとなりました。内陸部へ向けての列車旅行で、都市近郊部の農村の百万元戸の状況も見ることができました。北京では、万里の長城組と関係商社等との協議の2グループをつくり、調査団全体として、台風による一日分の損失を回復させました。

飛行機の便の関係もあって、上海港や関係機関との会議も実施でき、中国の東北部、北京、上海など地方の違いも実地に比較することができました。

調査団として帰国後、いくつかの会合を行い、今後の港湾交流についての調査団提言と報告会、報告書の作成、各方面へのPRなどを行いました。

(5) 調査団提言

次に、調査団提言の概要をまとめます。

- ① 大連港、菅口港の港湾管理当局等と舞鶴港当局との相互交流を定期的に行う。
- ② 関係する行政機関、経済団体、民間団体との多面的な相互交流を今後とも継続的に行う。

- ③ 舞鶴港の利用と結びつけることをめざし大連港、菅口港を拠点とする東北地方の貿易貨物の物流システムの現状を調査する。
- ④ 農業開発、畜産振興という観点から相互の交流を進めるとともに、舞鶴港を肥飼料基地として整備する。
- ⑤ 舞鶴港におけるコンテナ化対応は、正に焦眉の緊急課題である。
- ⑥ フェリー輸送について、近畿自動車道舞鶴線の開通に照準を合わせ、その定期航路化への取り組みを強める。
- ⑦ 日本海側諸港との連携、協調を一層推進する。
- ⑧ 大連経済技術開発地区への企業立地をはじめとして、対中合弁、合作又経済協力、技術援助など日中間の協力をめざした交流強化を図るため、関係機関へ働きかける。
- ⑨ 港湾都市としての特性を活かし、都市臨海部空間を活用したイベントや国際交流に取り組む。

(6) 調査を終えて

調査を終えて、北九州での物産見本市や大連市の東京への貿易経済機関の立地による関係者の訪日に対応しての意見交換やレセプションにも参加し、調査団の考え方の確認を行ってきました。

一回だけの調査団というよりは、継続的、発展的な長期スパンのスケジュールによる対応が本当に、地方レベルの国際交流とその具体的発展を願うならば必要なことではないかという印象を強くした次第です。

次に、調査団に参加しての感想について、まとめてみたいと思います。

中国（大連）の港湾問題は、日本の高度成長期の労働力の豊富さを現在も保有していることを除くと、日本の港湾問題と同じような

ものと考えてもよく、そのことは、建設の時代的経緯からも納得のできることです。従って、港湾整備や港湾振興についての国際交流について、日本の関係者は自分の港湾と同じように取組み、解決策を出していけばよいのであり、その意味で、誰でも港湾の国際交流にスムーズに参加できるということだと思えます。

物流の近代化への取組みが当面の焦点になっているが、日本でも取組み出している、ウォーターフロントの親水施設づくり、海洋性レクリエーションの基地化など、物のみでなく、人や文化や情報の集まる空間づくりの時代にいずれは突入することを思えば、日本の今の工夫が将来の国際交流の種づくりであり色々な側面での交流がなされ、それらの積み重ねにより、貿易振興が花を開く時代になっていくものと思われました。

また、都市建設と都市的産業の振興が大連市等で重点となっており、具体的なまちづくりに参加して、着実に積み上げていく地道な交流が大切であると痛感した。例えば、日本料理店「清水」の出店など一市民、一府民レベルで立地などの例もあり、個別企業の合作や合弁が可能であればさらにすばらしいことは言うまでもないし、健康、文化、工業など相互に関心とメリットのあるテーマについての多面的な交流が考えられてもよいのではないかと思います。

舞鶴港と大連港、東北三省との交流の具体的進展とそのための官民一体の協力を切に願うものであります。

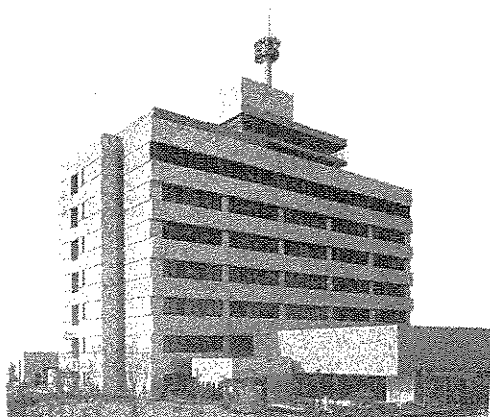
（かないまんぞう 大阪事務所長）

臨海部にある現代的ガスエネルギー館

内村 雄二

近頃、電力館やガス博物館等の建設をよく耳にします。これらは集客施設であり、人の集まりやすい利便性の高い既成市街地に多くあるようです。

しかし、ここに紹介する東邦ガスのガスエネルギー館は、名古屋港の東部（東海市）の臨海工業地帯に立地しています。このようなあまり一般の人が来ないところになぜ建設したのか考えてみました。基本的には港湾空間立地のメリットを最大限に活用している施設ということですが、①地価が安く広大な空間が確保でき、施設ボリュームが十分にとれる、そのため、敷地内には社内研修用の都市ガスプラント（LNG 都市ガスにする工場）やインキュベーター（実験棟）、総合研究所といった施設が併設され、全体として複合的機能を備えることができる。②工業系用途地域にあ

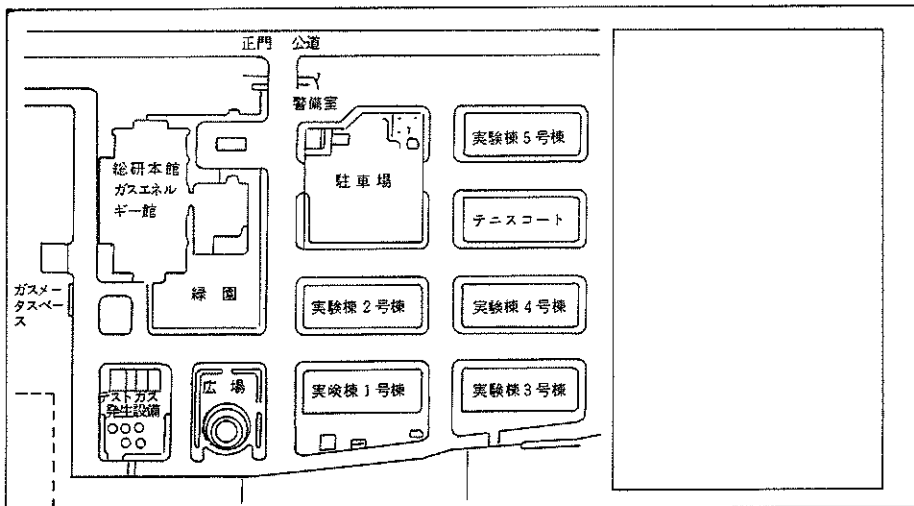


るので、研修用プラントや実験棟等の工業系施設とガスエネルギー館といった集客施設とが併設できる。これは住・商系用途地域の多い既成市街地ではなかなか難しい。③臨海工業地帯にあるLNG基地（自社工場）に近接しているため、ガスが簡単かつ低コストで供給できる。

以上、思いつくままに港湾空間施設立地のメリットをあげてみました。いずれにせよ、これからの港湾空間活用の好例として注目に値する施設ではないでしょうか。

（うちむらゆうじ 名古屋事務所）

図 東邦ガスガスエネルギー館配置図



簡易堆肥器導入などで 収集ごみを大幅削減

— 兵庫県養父郡4町 —

重本 幸彦

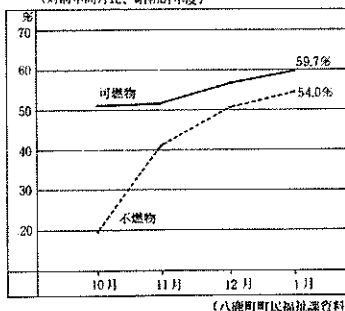
兵庫県但馬地方の養父（やぶ）郡4町では、昨年秋からごみの減量に取り組み、一時は月平均で収集量を半減させるなど、画期的な成果を挙げつつある。これは、広域行政で4町共同の清掃事業のごみ焼却施設の能力が限界に達したため、とられた対応。一般に市町村がごみ減量に取り組んでも、その減量効果はせいぜい10%程度、今回のように例え一時的にしろ半減した例は、注目される。

4町のうち、八鹿町（人口約13,000人）は郡の中心的な商店街のある小地方都市であるが、ここでは①簡易堆肥器（商品名タフコンボ、底抜け型のプラスチック容器）による生ごみの堆肥化の奨励、②ごみ収集における有料指定袋制への移行（1袋50円、以前からの定額有料制を各家庭からの収集ごみ量に応じた従量有料制へ）、③分別収集という、3点セットの対策をとった結果、収集ごみ量が対前年同月比で50～60%に大きく減少した。

昨年10月に減量を始めた後、少しずつ、減少率は上昇気味だが、町役場担当課（町民福祉課）は75%程度で落ち着くのでは、と期待している。

3セットの対策で最も効果をあげたのは、

図1 収集ごみの減量効果
（対前年同月比、昭和61年度）



①の対策。町が補助金制度を設けて購入を促進したところ、町の世帯の約半数が簡易堆肥器を庭などに設置した。家庭のごみの約半分は、生ごみ（台所ごみ）。これが大幅に自家処理されたため、それまで毎日300トンほど出ていた可燃ごみが150トンぐらいいままで減少した。この背景には、②のごみ収集の有料化を強めたことも、大きく作用しているとみられる。

担当課では、ごみ減量の効果として、近く改築予定の郡としてのごみ焼却施設の規模を当初計画から縮小できそうなこと、埋立て地（最終処分地）の使用期間の延命、廃棄物の再資源化などをあげている。また、ごみ処理費用の半分以上は、各家庭を回るごみ収集作業の費用。もし、減量により収集体制（同町では週3回収集）の見直しができれば、施設面と合わせて、町財政はかなり助かることになる。“ごみ減量で町財政にゆとりを”という訳である。同町の今後の対応に関心が持たれる。

いずれにせよ、これほどのごみの減量は担当職員の熱意と町民の協力の賜物であるが、労多くして効果の少ない家庭ごみ減量運動に苦心している各市町村の清掃事業に一つの参考となろう。少なくとも、農村部をかかえる所での効果は十分あると思われる。

（しげもとさちひこ 大阪事務所）

図2 簡易堆肥器の仕組み



まちかど

伝統産業の再生と洋風建築
— 復活した薩摩切子 —

伊集院 豊麿

鹿児島県の地場産業を紹介するショーケースの中にきらりと光るガラス器を見つけました。江戸時代に作っていた薩摩切子（きりこ、カットグラス）が復元されたと聞き、早速製造現場を訪ねてみました。

その礎工芸館は、桜島が美しい鹿児島市の郊外にあり、しゃれた洋風建築の建物で、レストハウスは宮林署だった明治建築を再利用しています（写真1、2）。

薩摩切子は、ヨーロッパの技術を学んで、江戸時代末期に製造が始まったカットグラスで、当時のイギリス公使パークスが、「西洋博覧会ニ出シテモ恥シカラヌ程ノ手際ナリ」と評した技法によって、生産されています。無色の素地ガラスに色ガラスを被せて、これをカットしていく行程のほとんどが手仕事です。紅、藍、紫、緑の色ガラスは、薬品の調合や冷やし方で微妙に色の出方が違い、特に1,500度の高温からの冷やし方が難かしく、この工程にはコンピューターが一役かっています。

多くの人と人とのつながりと、現代技術がこの伝統産業の復活を支えているようです。

（いじゅういんとよまる 九州地域計画研究所）

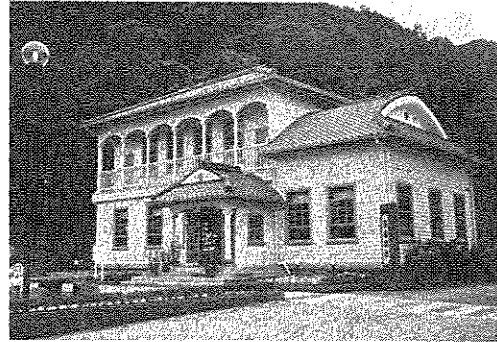


写真1 レストハウス

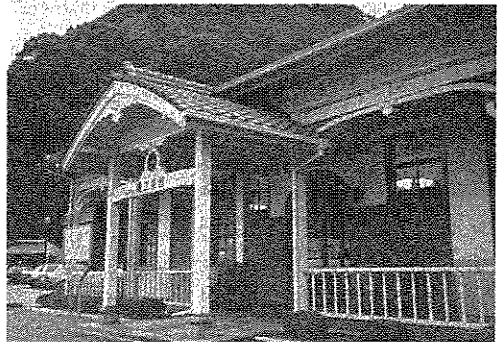


写真2 礎工芸館

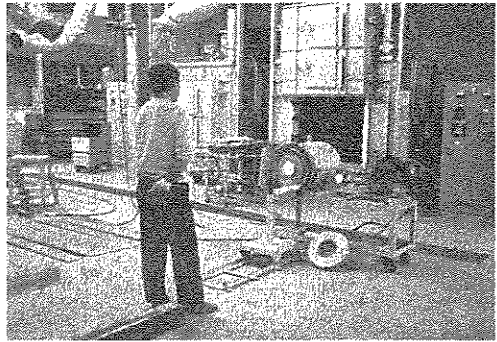


写真3 製作現場

ARPA・K (株)地域計画・建築研究所

ARCHITECTS, REGIONAL PLANNERS & ASSOCIATES, KYOTO

本社	〒600	京都市下京区四條通り高倉西入ル立売西町82	TEL (075)221-5132(代)
京都事務所		(大和銀行京都ビル8階)	
大阪事務所	〒540	大阪市東区石町1丁目1番地	TEL (06)942-5732(代)
		(天満橋子代田ビル2号館)	
名古屋事務所	〒460	名古屋市中区丸の内3丁目18番30号	TEL (052)962-1224
		(ツボウチビル6階)	
九州地域計画研究所	〒810	福岡市博多区中洲中島町3-3 児島ビル3階	TEL (092)281-2349
北海道地域計画建築研究所	〒047	小樽市色内1丁目2番19号 通信浜ビル3階	TEL (0134)29-1109